



喜多方

KITAKATA CITY

市勢要覧

喜 多 方 市

K I T A K A T A

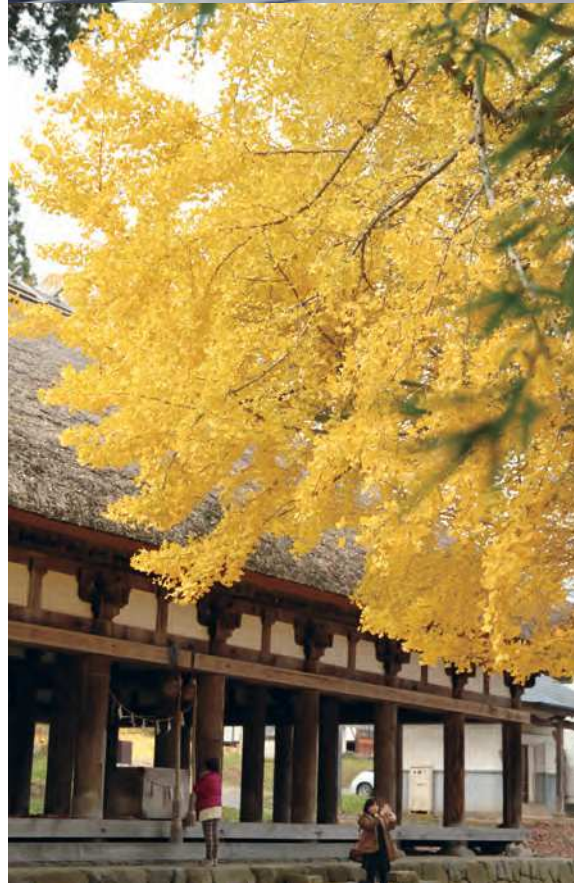
総面積554.63平方キロメートル、人口約4万9千人。

飯豊連峰、雄国山麓、三ノ倉高原、雄大な自然環境。

文化財や蔵などの歴史を感じさせる建造物。

喜多方ラーメンや山都そば、多彩な農林産物。

豊富な観光資源に恵まれ、暮らしと観光、産業が
調和し、笑顔があふれる住みよいまちです。



喜 多 方 市

会津の北方に位置していたことから、古来、北方(きたかた)と呼ばれていました。

市の約6割が林野で、東部、西部、北部地域を中心に、山林が広がっています。一方、市の中心部から南部にかけては、平坦な地形で、市街地を囲むように、田園地帯が広がっています。市の南端には、一級河川である阿賀川が流れ、猪苗代湖を源とする一級河川の日橋川や山林地帯からの支流が集まり、只見川と合流し、山間地帯を蛇行しながら、新潟県に向かって流れています。

CONTENTS

- 01 安全でおいしい
農産物をつくりたい
- 02 受け継がれる
ものづくりの心
- 03 先人の教えを今に
未来を担う人づくり
- 04 伝統の思いをつなぐ
心をはぐくむ
- 05 健康寿命を延ばし
介護に頼らない
- 06 花がもてなす
四季折々の美しさ
- 07 歴史と歩み
- 08 喜多方市の地勢と産業
- 09 喜多方市の人口
- 10 イベント歳時記
- 11 私たちが目指すまちの姿

躍進する風格ある喜多方

福島県の会津北部に位置する喜多方市は、東に裾野を広げる雄国山、北西にそびえる飯豊連峰、南部を横断する阿賀川が流れる自然豊かな農山村観光都市です。

平成18年1月4日、喜多方市、熱塩加納村、塩川町、山都町、高郷村が合併し、肥沃な土壌と豊かな水、広大な山林の恵みに満ちた新たな喜多方市として生まれ変わりました。

一方で社会情勢は、少子高齢化、人口減少など大きく変化しています。今後は、地方創生を中心とした積極的な施策の推進が重要です。

このような中、本市では地域特性・地域資源を生かしつつ、市民と行政が連携しあい、市民が郷土に対する誇りを持てるまちづくりをすすめています。

歴史や文化、農林業や地場産業を大切にした風格と特色ある地域づくりを積極的に進め、未来を担う人づくり、地域ブランドの創出、自然と環境との共生を掲げ、ますます存在感のあるまちへと躍進していきます。

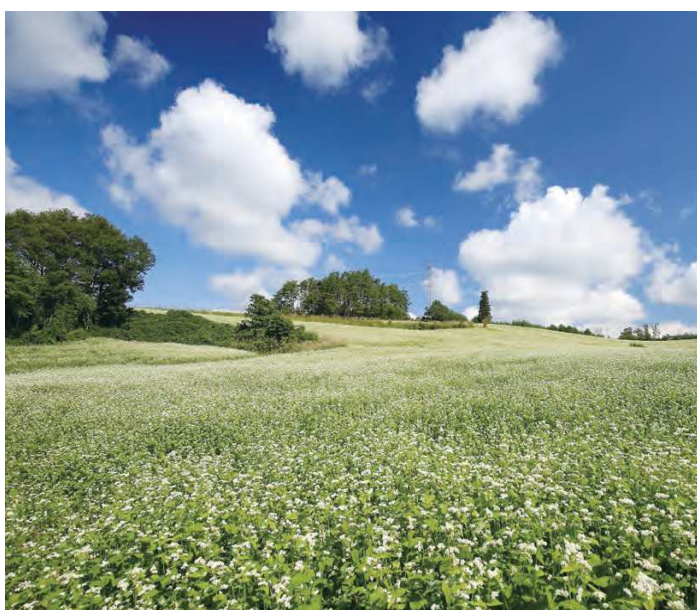
01

安全でおいしい
農産物をつくりたい



グリーンアスパラガスは露地やハウスで栽培される。

収穫時期は春と、夏から秋の2回で、6月ごろに切り替わる。20～30cmに育ったら収穫し、最盛期となる初夏は1日で10cm以上成長するため、朝と夕の1日に2回、収穫する。



昼夜の寒暖差が大きく 品質の高いソバが生産される山間部には、多くのソバ畑が広がっている。

農業の6次産業化のパイオニアとも言える山都町宮古地区では、栽培から手掛ける農家そば店が数多く営業している。

そば本来の味を楽しむ「水そば」が有名。

適地適作こそ最大の武器

適地適作だからこそ旬の時期に、旬の本当のおいしさが味わえる。

盆地特有の昼夜の寒暖差が、作物の生きようとする力を高め、おいしい農産物を育む。

魅力ある農業へ

本市の農業は、良質な水と肥沃な土壌に育まれ、農業産出額の7割を占める水稲を中心に、東北地方有数の生産量を誇るグリーンアスパラガス、チェリートマトやキュウリなどの園芸作物、県内1位の栽培面積を誇るソバ、トルコギキョウやリンドウなどの花き、高い品質を誇る畜産など、適地適作による営農が展開されてきました。

しかし、農業就業人口は、過去20年間で3割も減少し、さらに、60歳以上の農業就業者の占める割合が7割を超えるなど、担い手不足と高齢化が課題となっています。

一方で地元の新鮮な農作物を学校給食等の食材に供給することや、直売所の拡充等による地産地消の推進、6次産業化による農林業を主体とした新たなビジネスの展開、施設園芸の推進による



コシヒカリとひとめぼれは米の食味ランキングで「特A」を獲得。

米の全量全袋検査は、ベルトコンベア式の検査機へ1袋ずつ通している。膨大な時間と労力を掛け、安全・安心を確保している。



キュウリ、チェリートマトは多くがパイプハウスで栽培され、グリーンアスパラガスとともに市の振興作物である。キュウリは、昭和40年代に産地指定を受けて以来、形の良いおいしいキュウリ栽培に励み、売り上げも順調に推移している。90%以上が水分で、ビタミン・ミネラル・食物繊維がバランスよく含まれ、中でもカリウムは、むくみを改善する効果があるといわれている。チェリートマトは、昭和50年代に取り組みが始まり、今ではベテラン農家を手本にして、若い生産者や、新規就農者が生産技術の研鑽に励み、栄養価が高くおいしい、さらには収益性の高いチェリートマトづくりを実践している。普通のトマトに比べ、タンパク質、リコピン、食物繊維などが約1.5倍、ビタミンAは約2倍で、胃もたれの改善や風邪の予防にも効果があるといわれている。

高品質な農作物の生産、首都圏での商談会への出展等による積極的な販路の拡大などにより魅力ある農業を目指しています。

安全・安心を農業の柱に

有機栽培・特別栽培の推進やエコファーマーの取得など安全な農産物の生産と環境に配慮した農業をさらに推進し、他地域との差別化を図る取り組みを推進しています。

エコファーマー数は1600件を超え、県内一を誇り、おいしさと安全性、さらに、環境と調和した持続的な農業が着実に定着しています。

東京電力福島第一原子力発電所の事故以来、農産物への風評被害の影響が懸念されています。主要作物である米は、全量全袋検査以外にも市独自の検査を実施し、安全・安心を追及しています。

また、農協とスクラムを組み、首都圏や関西圏、沖縄県等でトップセールスを行うなど、喜多方産農産物の風評被害の完全払拭を目指しています。

昭和電工(株) 喜多方事業所

J R 喜多方駅の南に10万坪を超える広大な敷地面積を有し、1939年の設立以来、一貫してアルミニウム製品の製造を手掛ける。

現在は自動車関連部材を中心に製造を行い、ポルトガル、シンガポール、マレーシアにも海外拠点を有し、軽量化や環境負荷軽減に向けたニーズが高まる中、グローバルに供給体制を構築している。



本田金属技術(株) 喜多方工場

1974年、昭和電工(喜多方工場)から建屋を借用して生産を開始、75年に喜多方工場が設立された。

本田金属技術はHondaの創業者 本田宗一郎氏の実弟本田弁二郎の「技術をもって社会に貢献する」という熱い使命感から生まれ、Hondaのピストンメーカーとして生産をスタート。「理論、時間、創意工夫を尊重する」ことを社員の行動の三原則に掲げるなど技術追求の姿勢は創業から変わらず、アルミ精密金型鑄造のパイオニアとしての地位を確立。

ものづくりへの探究心
産業構造は時代とともに変わる。
ものづくりへの探究心こそ新たな発展への原動力。
喜多方には逆境をバネに躍進する力強さがある。

地域を支えるものづくり

本市の産業は、昭和40年頃までは、稲作を中心とした農業が基幹産業となっていたが、日本の高度成長や農産物価格の下落などにより、代わって非鉄金属、繊維、弱電などの製造業(ものづくり産業)などの就業人口が増加してきました。

特に、アルミ製品関連の製造業は、本市の産業を支える大きな柱となっています。

バブル経済崩壊から長期にわたる景気低迷、その後の世界同時不況、平成23年3月に発生した東日本大震災など、ものづくり産業を取り巻く環境は深刻な状況にありましたが、業種によっては人手が不足するなど好調さも見られ緩やかな回復基調にあります。

今後は、先端産業や成長産業、エネルギー産業等への参入、企業立地がしやすい環境の整備と操業の支援により立地競争力を高め、雇用の創出やものづくり産業の裾野を



マルサ漆器製作所

明治41年創業の4代目佐藤 達夫さん。
創業当時、近隣には140軒もの漆器工房があったという。生活様式の変化などから現在は数軒となった。
佐藤さんは「口当たりの良さと湿度を保つ力のある漆器で飲む酒が一番おいしい」と自慢の漆器を手に取り目を細める。
時代に流されることなく原料の漆の精製から手がけ本物を追求する。



学校給食では、地場産漆を使用した塗碗を使用し、本物の漆器の良さを子ども達に伝えている。



豊富な地下水が酒づくりを支える



蔵の中で醸される極上の酒



世界が認める喜多方の酒蔵

人口5万人に満たないまちに酒蔵が11もある、県内有数の酒どころ喜多方。本来なら商売敵である酒蔵が、お互いに切磋琢磨する「良きライバル」関係にある。

IWC 2015(インターナショナル・ワイン・チャレンジ)日本酒部門では、「会津ほまれ 播州産山田錦仕込 純米大吟醸酒」が876銘柄から世界No.1のチャンピオン・サケに輝いた。普通酒の部門の最高金賞である「トロフィー」を受賞した「夢心」、純米酒の部「福島トロフィー」を受賞した「笹正宗」と世界が認める酒づくりが喜多方にはある。

広げる施策を展開していきます。

輝く伝統産業

良質で豊富な水や米を原料とした酒造業、漆器や桐材加工などの伝統的なものづくり産業も息づいています。

平成27年7月に開催された世界最大級のワイン品評会IWC2015(インターナショナル・ワイン・チャレンジ)日本酒部門で市内の蔵元がチャンピオン・サケに選ばれたほか、2つの蔵元もトロフィーを受賞しました。1つの市町村から3つのトロフィー受賞は全国で初の快挙です。

会津の漆器は、会津藩主蒲生氏郷が出生地の近江国(滋賀県)から、多くの木地師、塗師の職人を招き、農閑期の副業として奨励保護したのが始まりであると言われ、武家社会で培われた伝統や技術が、ここ喜多方の風土で育まれ、400年の歴史とともに今に受け継がれています。

これらの伝統的な産業をさらに輝かせるためにも喜多方の知名度を生かした「ものづくり分野における喜多方ブランド」の構築などを支援していきます。



うりゅう いわこ
瓜生 岩子

瓜生岩子は、文政12年に小田付村(北町)に生まれた。

母や夫に先立たれた岩子は大変悲しんだが、世の中には不幸な人が多いことを思い、それらの人のために尽くそうと決心。

戊辰戦争では、敵、味方の別なく傷ついた人を看護し、また、貧しい人や親のない子ども達の救済と教育に奔走し、日本のナイチンゲールと讃えられた。



はすめま もんぞう
蓮沼 門三

蓮沼門三は、明治15年に現在の山都町に生まれた。

地元の小学校を卒業後、東京の師範学校に入学し、そこで、友達と共に人格を向上させるための修養団を創設。

門三は98年の生涯をかけて「愛」の心ですべての人と仲良く、努力の「汗」を流して社会を良くし、すべての人が幸せになる明るい世界をつくらうと社会教育と社会事業を行った。



なか え とうじゅ
中江 藤樹

中江藤樹は、近江の国の高島郡小川村(現滋賀県高島市)に今から約410年前に生まれた。

藤樹の教えは、立派な道徳を身につけ父母や周囲に「孝」を尽くすことにあり、一人ひとりが自分の曇りのない心をつかむこと、つかんだらこの心に基づいて行動すること、そうすることで、親や子供を幸せにできるという考え。

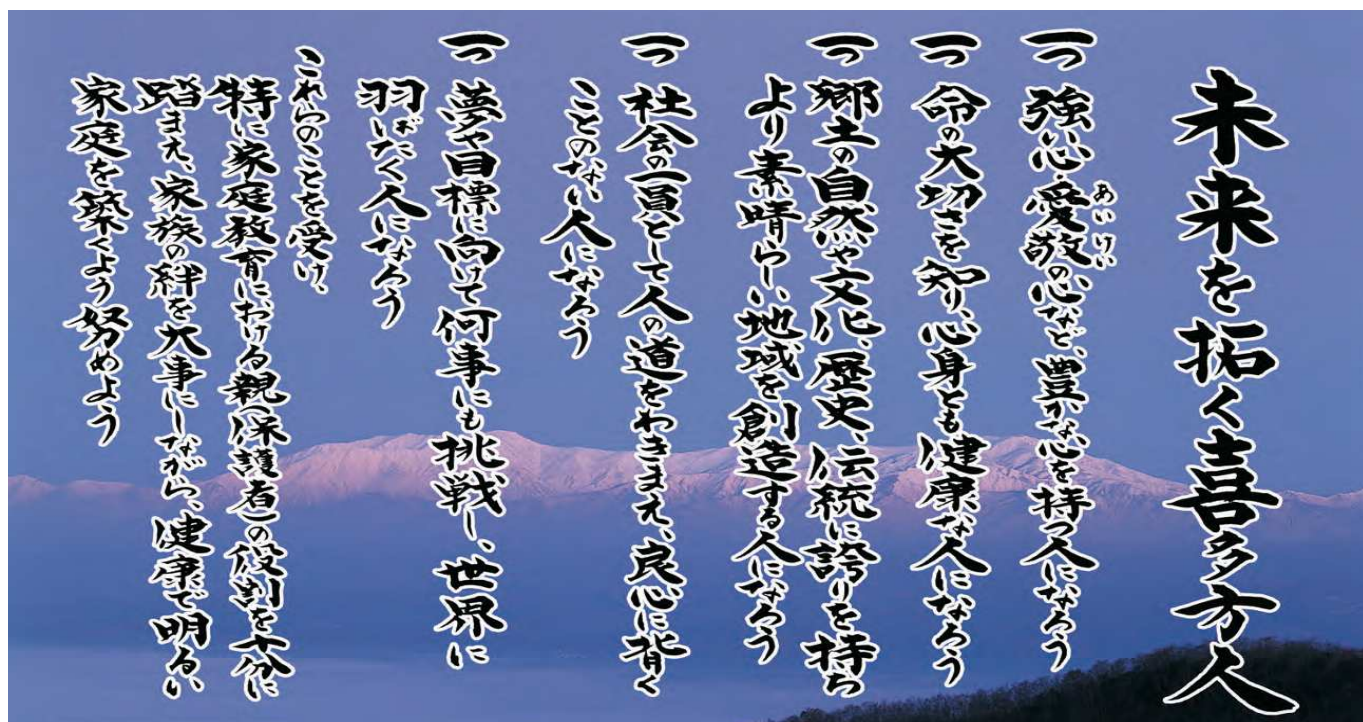
喜多方では、今でもその教えが引き継がれている。

誇りを持って共に生きる

本市には飯豊連峰などの清らかな自然、豊かな大地、さまざまな産業資源、そして、慈善事業家の瓜生岩子や、社会教育の先駆者で修養団を創設した蓮沼門三をはじめとする数多くの先人の実績、さらには江戸時代の初めから人々の精神面の支えとなってきた中江藤樹の教え(藤樹学)など「誇りを持って共に生きる力」を学び、身に付けるための道標が数多く残されています。

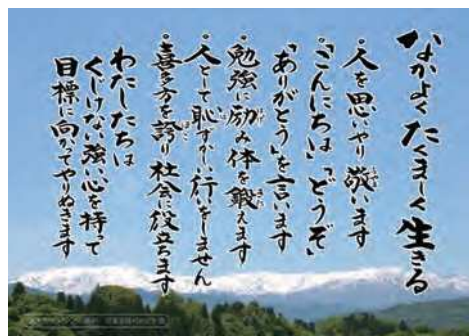
一人ひとりが「誇りを持って共に」生きる意識を持ち、社会全体をより良い方向へ導くため、先人の貴重な道標を最大限に活用し、時代の要請に応じた施策を展開するため、平成23年6月、「喜多方市人づくりの指針」が作られました。

この指針を、家庭や地域社会、学校そして、行政などの



喜多方市 人づくりの指針

学校や地域で講師の派遣事業を通して先人の考え方や生き方を学ぶ。喜多方市人づくりの指針の浸透を図っている。



小学校農業科

「なすことによって学ぶ」精神に基づき、農作業の実体験活動を重視した教育を展開している。

- 1 農作業の実体験を通して、自然の係わり合いの複雑さについて理解し、他の生き物と共存することの大切さを理解することができるようにする。
- 2 農作業の実体験を通して、食べるものの意味を理解し、生命の大切さを理解できるようにする。
- 3 農業に必要な気象、土壌、生物などの基本的な知識を習得すると共に、将来を予測し、計画的に農業に取り組むことができるようにする。

関係機関においてその実現を目指す努力目標とし、各種生涯学習施策に活かし、生涯学習を通じて「誇りを持って共に生きる力」を備えた人づくりを推進しています。

スポーツで交流 農業で教育
平成23年3月に「スポーツ交流都市」を宣言し、市民の健康づくり、スポーツを通じた市内外交流により地域の活性化など生涯スポーツの振興を図っています。

市民誰もが日々のライフステージにおいて、気軽にスポーツやレクリエーションに親しむことのできる環境を整え、健康づくりや体力づくりとともに生涯スポーツの振興に努めています。

また、平成18年に農業教育特区として全国初の小学校農業科に取り組み、農業を通して「心の教育」「自然との共生」「食育」「環境」を学ぶことを目標に掲げ、さまざまな支援組織や地域の皆さんなどの協力のもとで進められています。



北限の御田植神事 慶徳稲荷神社御田植祭り

平成27年、国の文化審議会において会津美里町の「伊佐須美神社の田植神事」とともに「会津の御田植祭」として、『記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財』に選択するよう答申された。毎年「半夏生」(はんげしょう)の日に行われ、祝詞奏上・田植歌の奉納・御輿渡御と進む。御輿が神田に着くと、デコと呼ばれる田植人形を畔に立て、田植歌に合わせて、狐の面を持った子ども達(白狐)が苗を投げ入れ、早乙女たちが苗を植える。



下柴の彼岸獅子

下柴の彼岸獅子は、天正2年(1574)、全国に疫病が流行した際に、獅子舞を演じて疫病退散を祈願したことが始まりだと伝えられている。

獅子団は太夫・雄・雌の獅子役3名と幣舞小僧と呼ばれる子ども1名、笛と太鼓の囃子方(はやしかた)、歌い手、そして弓持ち、棒持ちによって構成され、演目は12種目ある。

暮らしとともに守られた伝統と文化

先祖が残した豊かな伝統文化は日々の暮らしのなかで、脈々と受け継がれ伝えられていきます。
伝えることを私たちの使命とし、次の世代へ思いを託します。

自然と信仰とともに

山地や平地を問わず、人々はその自然環境に合わせた生活を代々営むことで、地域独自の暮らしを作り上げてきました。

その暮らしに根付いた数々の伝統文化を、大切に次の世代に守り伝えたいという気持ちは、地域が違っても、共通した「思い」であり、「願い」でもあるのです。

厳しい冬が終わり、彼岸獅子が春の訪れを告げると、人々は飯豊山の残雪や、身近な自然の出来事を頼りに農作業を始めます。

夏の田植えの時期、神社では御田植祭りが行われ、皆で豊作を願います。そして秋の収穫を迎えると、今度は神様に感謝を捧げ、山々の色づきとともに、冬支度を始めます。

こうして昔から人々は、自然や神仏に願い、感謝することで毎日を過ごしてきたの



日本遺産 会津の三十三観音めぐり

「会津の三十三観音めぐり～巡礼を通して見た往時の会津の文化～」を会津地域の17市町村が連名で文化庁に申請し、平成28年度「日本遺産」に認定された。喜多方市には1番から9番までの札所がある。

「会津三十三観音」御詠歌は、地域によって節が異なるなど地域性豊かに発展し、葬儀の際の供養として詠まれることが慣習となっている。さらに「観音講」と言われる地域の団体が古くからの伝統として観音巡りを行っている。



飯豊山信仰

会津地方では、飯豊山への登頂は少年の成人儀式とされ、15歳までに登拝しなかった者は一人前と認められなかったため、盛んに集団登山「御山駆け」が行われていた。



です。

また、少年たちは過酷で神聖な飯豊山に登ることによって一人前の大人として認められてきました。

受け継いで、そして伝える

時代が進むにつれて、少子高齢化や過疎化が進み、これらの伝統文化を受け継いできた地域の存続が危ぶまれています。

このような中、地域や保存会などが中心となり、次代を担う子どもたちや若者へ、伝統文化を継承していくという動きが進められています。

伝統文化を守るといふことは、単なる行事の継承だけではなく、自分たちが住む地域を良く知り、愛着を持つという「心」をはぐくむ使命をも持ち合わせているといえます。

平成28年度には、「会津の三十三観音めぐり」が、日本遺産として認定されました。活用には地域の理解や連携など新たな策が必要で、信仰の心をいかに伝承するか、という課題も見えてきました。

05

健康寿命を延ばし
介護に頼らない

太極拳で介護予防

太極拳の効果を、介護予防に活用
太極拳ゆったり体操で元気なまちづくり



太極拳フェスティバルでは、一流の講師陣から指導を受けることができる。



JR喜多方駅前に設置された「太極拳のまちモニュメント」。ボタンを押すと太極拳の演舞用音楽が流れる。



太極拳ゆったり体操のDVD
付き手引書。2,160円(本体
2,000円+消費税)で販売。



太極拳ゆったり体操の開発および効果検証、指導員育成制度の確立等、事業についての功績が認められ平成19年度に保健事業推進功労厚生労働大臣表彰を受けた。

この体操を普及するため太極拳ゆったり体操サポーター講習会を開催している。

高齢者の衰えを防ぐ

太極拳のまちづくりは、平成14年10月の「うつくしまねりんピック2002太極拳交流大会」の開催をきっかけに、太極拳を通じた交流の輪が広がり、平成18年6月に「太極拳のまち」を宣言し、健康・福祉・教育・交流の調和のとれた太極拳のまちづくりを本格的にスタートさせました。

太極拳は全身を無理なくバランスよく動かすことから、介護予防における太極拳の健康効果に着目し、福島県立医科大学 安村誠司教授、会津保健所との協働で、平成19年度に太極拳の要素を取り入れた「太極拳ゆったり体操」が完成しました。

この体操で高齢者の身体機能の衰えを防ぐとともに、継続することで身体機能を回復させ、要介護・要支援にならないよう介護予防につなげています。

花がもてなす 四季折々の美しさ



三ノ倉高原ひまわり畑



日本最大級100万株の山都町沼ノ平の福寿草



熱塩加納町ひめさゆり群生地のにめサユリ



高郷町鳥屋山登山道のかたくり



塩川町御殿場公園のハナショウブ

時代を超えて守り、受け継がれる心

花を愛でる心 自然を大切にすること

四季を彩る花は 暮らしの中で代々守り受け継がれる心なのです。

自然と共生する持続的な観光
全国的にも有名な喜多方
ラーメンや蔵などの観光資
源に加え、豊かな自然と長い
歴史に育まれてきた「花の資
源」を多くの人に楽しんでい
ただき、誘客に結び付ける
「花でもてなす観光」を進め
ています。

特に、三ノ倉高原には、平成
25年から東北最大規模を誇る
ひまわり畑や菜の花畑などを
造成し、多くの人々を魅了し、
癒しを与えています。

一方、食と花を生かしたま
ちづくりを進めている新潟
市と本市に共通する「花」を
中心として、平成26年6月に
「花でつながる観光交流宣
言」を締結し、観光交流を促
進し、相互に協力・交流して
います。

花は自然環境を守り、育て
ることが必要です。喜多方の
魅力に「花」を添える、持続的
で新しい観光が注目されて
います。

山や川の恵みを受けて、この地でくらし始めた人々は、稲作を行い生活の場を広げていきます。そして打ち続く戦乱の世には、神仏に心のよりどころを求めていきました。やがて人々は、川を舟運に利用することで物流を発展させ、この地を会津北方の文化・経済の中心として成長させてきたのです。

太古の喜多方と人々

約1万5000年前の旧石器時代、すでにこの地には人類が生活していました。高郷町の遺跡からは、そのことを示す石器が発掘されています。

縄文時代には、新潟や関東など他地域と交流して影響を受けつつも、喜多方地方独自の文化を作り上げていきました。

塩川町の常世原田遺跡は今から7000年前の縄文時代の遺跡で、出土した土器は「常世式土器」と命名され、縄文時代の時期を判断する基準資料となっています。

支配者層の登場

約2300年前の弥生時代に本格的な稲作が始まると、生活の場は山地から平地へと拡大していきます。

喜多方地方にも農耕を基盤に、地域を治める支配者層が現れました。

塩川町の古屋敷遺跡は阿賀川以北の地域を支配した古墳時代の豪族の館跡と考えられ、東日本最大級の規模を誇るものです。また、支配者層が自らの権威を示すため、雄国山麓や慶徳地区の丘陵部には大規模な豪族の墓「古墳」が造られました。



古屋敷遺跡

東日本最大級の規模を持つ豪族居館跡。

5～6世紀の古墳時代中頃とされ、強大な政治・軍事力で阿賀川以北を支配した豪族の存在が想定できる。



銅造聖観音菩薩立像

福聚寺観音堂の本尊。大きめの頭、細くくびれてひねりを加えた腰つきなど、白鳳時代の特色がみられる。会津地方では最古の金銅仏。



大原遺跡出土 小型火炎系土器

火炎土器とは、新潟県の信濃川流域で発達した北陸系の土器。

縄文時代中期の集落遺跡・大原遺跡から出土。



アイヅタカサトカイギュウ

阿賀川畔、約800万年前の塩坪層から発見された。

現在では絶滅したヒドロタマリス海牛類の一種で、海牛類の新種。

※写真はステラーカイギュウの復元模型

喜多方市の歴史

旧市町村の歩み

1954 昭和29年

喜多方町、松山村、上三宮村、岩月村、関柴村、熊倉村、慶徳村、豊川村が合併し「喜多方市」が誕生

加納村、熱塩村、朝倉村の一部が合併し「熱塩加納村」が誕生

旧塩川町、堂島村、姥堂村、駒形村が合併し「塩川町」が誕生

旧山都町（昭和25年に山都村、木幡村、小川村が合併し誕生）に相川村外3ヶ村組合（相川村、朝倉村、一ノ木村、早稲谷村）が合併、翌年千咲村の一部が合併

1955 昭和30年

山郷村、新郷村、高寺村、千咲村の一部が合併し「高郷村」が誕生、昭和35年に旧高寺村が会津坂下町へ編入

新喜多方市の歩み

2004 平成16年

喜多方市、熱塩加納村、塩川町、山都町、高

争乱と信仰のはざま

平安時代、平氏の一族である越後の城氏が会津地方へ進出し、源氏と平氏の争乱へと関与していくことになりました。こうした戦乱の中、現世利益や極楽浄土を祈願して、有力者たちは寺院を建立し、経塚を築きました。

慶徳町松野地区で発見された松野千光寺経塚はその代表的なものです。

また、この地方の熊野神社は源頼義・義家父子の陸奥征討の時期に勧請され、これを引きつかけに熊野信仰が広まってきました。



会津新宮城跡

南北朝～室町時代前期に会津北部から新潟県東蒲原郡方面を支配した新宮氏の城館跡。東西約480m・南北約440mと、平地式方形居館では東北地方でも有数の規模を誇る。



会津新宮城跡出土青白磁象

長く巻いた鼻や牙が特徴。左右6本の牙をもつ象は、仏教では普賢菩薩が乗る霊獣とされる。象形の青白磁は国内初の出土。

武士の支配へ

鎌倉幕府が成立すると、有力御家人三浦氏の一族である佐原義連が会津に所領を得ました。やがてその子孫たちが有力領主へと成長していきます。

なかでも北部を支配した新宮氏と芦名氏の間では壮絶な勢力争いが繰り広げられました。

16世紀に芦名氏が会津のほぼ一円を支配すると、喜多方地域は会津北方の経済・文化の中心となっていくます。

願成寺 木造阿弥陀如来及両脇侍坐像

中尊が阿弥陀如来像、その両脇に坐するのが観音菩薩像と勢至菩薩像。三尊ともに寄木造で13世紀鎌倉時代の作とされる。



示現寺文書

寺所蔵の膨大な古文書のうち、中世文書11通と近世文書7通が文化財に指定。会津領主芦名氏からの寄進状や蒲生氏郷からの寺領目録などもみられ、会津の歴史研究では不可欠の資料。



新宮熊野神社 長床・御神像

長床を拝殿とし、その奥の石段を上った先に本殿三社が鎮座する。三社にはそれぞれ二体ずつ、合計六体の御神像が安置。桁の一本造りで、11～12世紀の作と考えられる。県内最古の神像彫刻。



勝福寺観音堂

享禄2年に焼失した観音堂を蘆名盛興が永禄元年に再建。会津地方では数少ない和様の手法を持つ中世末期の仏堂。

郷村により「喜多方地方5市町村合併協議会」設置

2005 平成17年

合併調印式

福島県知事に「廃置分合申請書」を提出

2006 平成18年

喜多方市・熱塩加納村・塩川町・山都町・高郷村が合併し、新生「喜多方市」が誕生

熱塩加納町・塩川町・山都町・高郷町合併特例区を設置

熱塩加納学校給食共同調理場オープン

都市農山村交流センター「慶徳ふれあい館」を開設

太極拳のまち宣言

グリーン・ツーリズムのまち宣言

市章・市の花・木・鳥・魚・昆虫を制定

中山森林公園「もりつこの里」オープン

喜多方市小学校農業教育特区の認定

2007 平成19年

全国市町村交流レガッタを開催

非核平和のまち宣言

2008 平成20年

ボートのまち宣言

5団統合により新たに市消防団が発足

経済的拠点への成長

寛永20年、保科正之の入部以後は、城下町若松が領国支配の中核であるのに対し、北方地域は地方の経済的拠点と位置付けられます。街道が整備され、北方の産物を若松や津川方面へ運送できるように阿賀川舟運の整備も進みました。

定期市が立ち、交易のために人々が集まると、文化的にも独自の発展をみます。北方地方が会津藤樹学の中心となり得たのもこの頃です。

また、三十三観音札所の巡礼や、豊作祈願や成年儀礼として飯豊山への登拝も始まりました。

明治以降の喜多方

明治期になると、新政府による地方支配の中で、北方地域には民政局小田付分局が置かれます。生糸や繭・桑など商品作物



三津谷の登り窯

明治23年に樋口市郎により建造。煉瓦・瓦の需要増大により、磐越西線や加納鉾山、煉瓦蔵など様々に使用された。



弾正ヶ原

栗村弾正清政の名に由来。明治15年、会津三方道路開鑿に反対した農民数百名がこの地に集結した。



六地藏石幢

一本の柱状の石(石幢)に6体のお地藏様の浮彫が施されている。地藏信仰の一形態として南北朝期に多く造立された。この石幢は、元禄7年の造立。

明治37年には岩越鉄道若松・喜多方間が開通、舟運に重きを置いていた喜多方地方の物流は大きな転換期を迎えます。

また、明治15年、福島県令三島通庸による会津三方道路開鑿工事に対して喜多方地方の農民たちが起こした反対闘争は、自由民権運動「福島・喜多方事件」として全国的な運動へと発展していきました。

の生産が急激に伸びていく一方、伝統産業の酒・味噌・漆器・木工なども販路拡大によって発展し始めました。明治23年には煉瓦を焼く登り窯が造られると、当時の需要と相まって一大生産拠点へと成長します。

館稲荷神社農耕絵馬

明治40年、地元の絵師高橋金年の作。江戸から明治にかけての、春夏秋冬の農作業の様子や風俗の変化が描かれている。



飯豊山山道絵図

古くから信仰を集める飯豊山の登拝の道筋を描いた、長さ6mを超える巻物。各祈願所や山上の様子が克明に記録されている。元禄12年作。



銅造五大虚空蔵菩薩坐像

ほんじぶつ

飯豊山神社に伝わる五社権現の本地仏[※]。鎌倉時代の铸造と考えられる。参詣期間には麓から背負って登り、山上の五社に一つずつ安置したという。

※本地仏＝神の正体とされる仏

喜多方学校給食共同調理場オープン

つがみね

「桐峰溪流水」が平成の名水百選に選定

全国水源の里シンポジウムを開催

2009 平成21年

全国発酵のまちシンポジウムを開催

交通安全都市宣言

2010 平成22年

ヘリコプター臨時離着陸場竣工

カイギユウランドたかさとオープン

国道121号大峠道路全線開通

2011 平成23年

合併特例区設置期間が満了

東日本大震災 震度5強を観測

スポーツ交流都市宣言

地域・家庭医療センター「ほっと☆きらり」オープン

全国ボートサミットを開催

新潟・福島豪雨災害発生

2012 平成24年

松山公民館多目的ホール「松楽館」落成

東京都東大和市と友好都市協定を締結

千葉県香取市と友好都市協定を締結

2013 平成25年

林道飯豊松枝岐線・一の木線開通

喜多方一会津若松を約15分で結ぶ 高規格道路「会津縦貫北道路」が開通



「会津縦貫北道路」は、会津北部地域における縦軸を強化する地域高規格道路である。喜多方市関柴町から会津若松市高野町間の延長13.1kmが平成9年度から国直轄事業として整備され、平成27年度に全線開通した。アクセス時間が短縮され、地域の大動脈として観光振興、企業誘致などの効果に大きな期待が掛かる。

喜多方市・熱塩加納村・塩川町 ・山都町・高郷村 合併



平成17年(2005)2月10日に5市町村の首長が合併協定書に調印、各市町村議会の議決、県知事への申請、県議会の議決を経て8月に総務大臣告示がなされ、平成18年(2006)1月4日、新市が誕生した。

これだけは押さえておきたい喜多方NAVI



喜多方ラーメン

飯豊山の澄んだ伏流水が生み出す、醸造のまち喜多方産の醤油を使ったコクのあるスープと、多加水のコシがある太いちぢれ麺が特徴の喜多方ラーメン。人口5万人ほどのこのまちに、なんと110軒以上のラーメン店があります。これだけのラーメン店があれば、各店が味を競って美味しい「喜多方ラーメン」ができようというもの。馴染みの老舗店に加え、新店も増え、喜多方ラーメンの進化は止まりません。日本三大ラーメンの1つ「喜多方ラーメン」を、ぜひ味わいに訪れてください。



喜多方の地酒

秋の実りの時期に真っ白な雪化粧を始める飯豊山は、初夏までその雪を残し、雪解け水はゆっくり時間をかけて平地へと注がれる。その良質な伏流水を使った味噌・醤油・清酒の醸造業が盛んで、中でも清酒醸造蔵数は人口比で全国トップクラスという酒処でもあります。全国新酒鑑評会や福島県の鑑評会、さらには世界的なコンテストでも多数の受賞歴を誇る喜多方の酒は、地元だけでなく全国的にも誇れる美味しさです。



そばの郷喜多方

ソバの作付面積も全国6位に入るなど、地元のみならず全国的にも愛されるソバ産地です。県外にもファンが多い「山都そば」をはじめ、各地で個性的なそばを食べることができます。



喜多方の漆器

喜多方の漆器は、古く芦名時代・天文年間にはじまり、その後天正18年に入封した蒲生氏郷が遠く近江の国より塗り師を招致し地場産業の基礎を築いたと伝承されています。

全国川サミットを開催

合併10周年記念式典を開催

市町村対抗福島県軟式野球大会で喜多方市チーム優勝

ご当地ナンバープレート発行

2016 平成28年

会津縦貫北道路が全線開通

木造建築による熊倉小学校体育館完成
(飯豊杉などの地場産杉を使用)

新本庁舎落成

2015 平成27年

新本庁舎での業務開始

喜多方産の酒器に注いだ日本酒による乾杯を推進する条例を施行

新潟市と花でつながる観光交流宣言を締結

東町蔵屋敷「会陽館」オープン

2014 平成26年

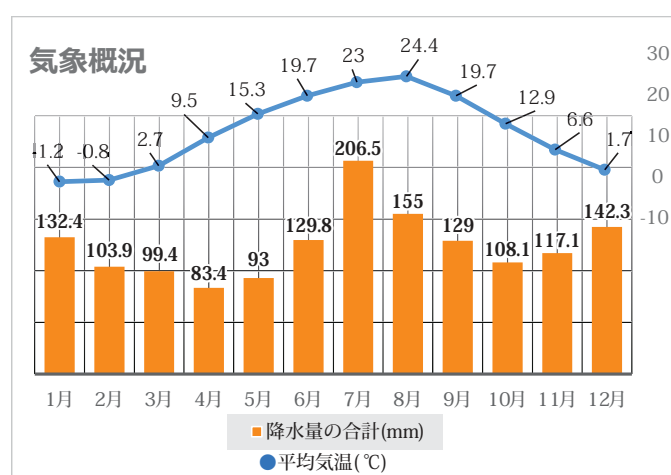
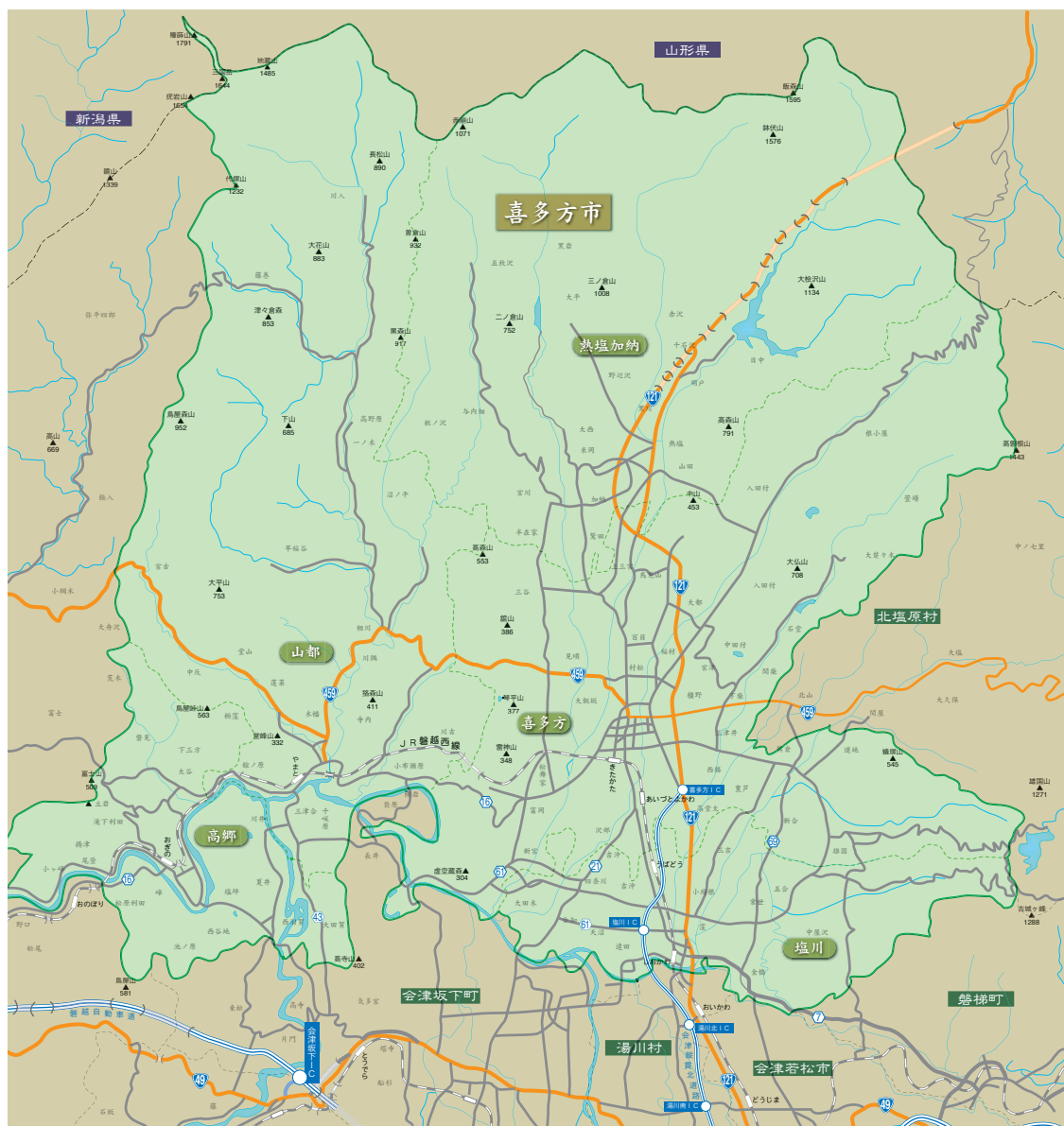
全国グリーン・ツーリズムネットワーク福島大会を開催

米国オレゴン州ウィルソンビル市との姉妹都市提携25周年を迎える

集中豪雨により甚大な被害(激甚災害指定)

喜多方市の 地勢と産業

福島県の北西部、会津盆地の北に位置し、北西に、世界遺産の国内候補に挙げられた飯豊連峰の雄大な山並みが連なり、東には名峰磐梯山の頂を望む雄国山麓が裾野を広げる豊かな自然に恵まれた風光明媚なまちです。



※気象庁 喜多方市の月別平均気温および降水量
(平年値 1981～2010 年の 30 年間の平均)

気候は、日本海側気候に属し、盆地特有の内陸性気候の特徴も有する。年平均気温は11℃前後で、年間降水量は1,500mm程度である。

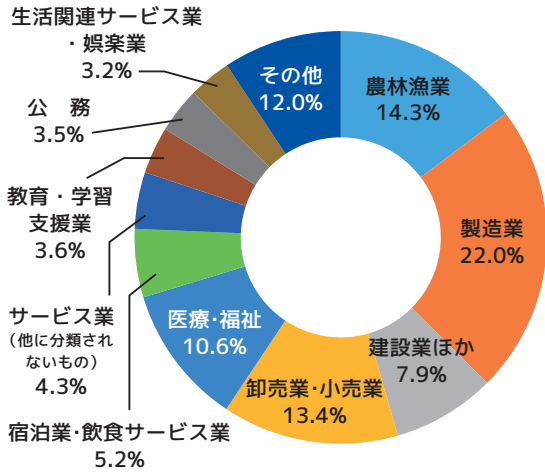
寒暖の差が大きく、夏は気温が高く厳しい暑さが続く日もある。一方、冬は寒冷で平均1～2メートル、多いところでは3メートルにも及ぶ積雪に見舞われるところもある豪雪地帯である。



市の面積
554.63 km²

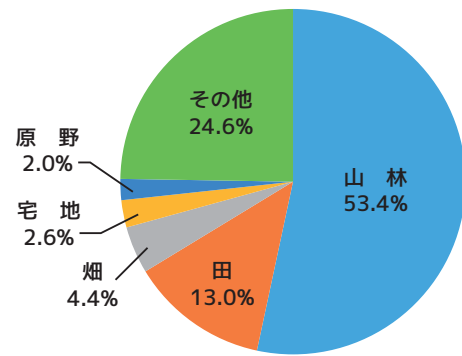
市の位置
北緯 37°39'04"
東経 139°52'28"
標高 211m
(市役所の位置)

産業別就業人口 24,686人



平成22年国勢調査

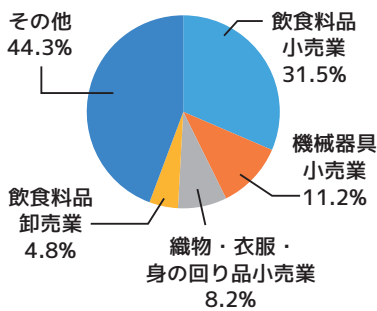
土地利用の状況 554.63km²



福島県統計年鑑2016 平成28年3月発行

産業分類別事業所数（商業）

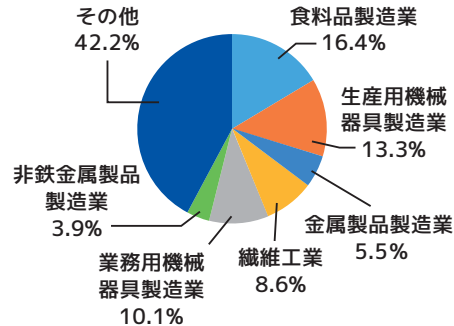
623事業所



福島県統計年鑑2016 平成28年3月発行

産業分類別事業所数（工業）

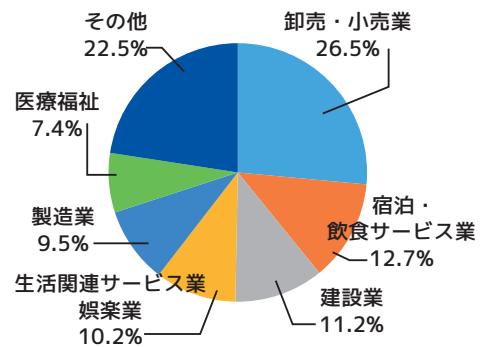
128事業所



平成26年福島県の工業 平成28年3月発行

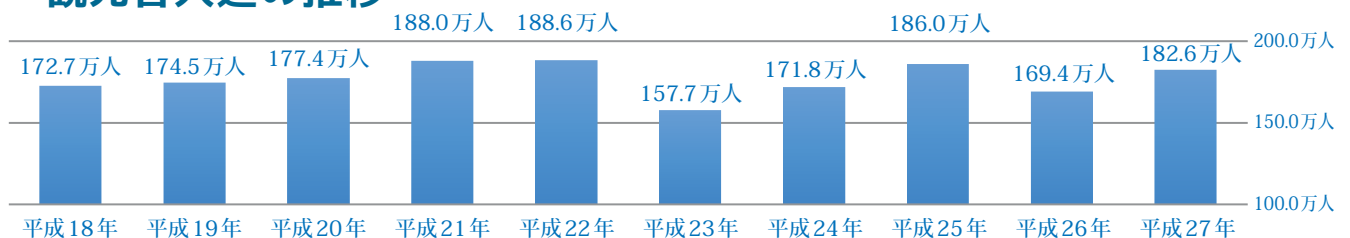
産業分類別事業所数

2,636事業所



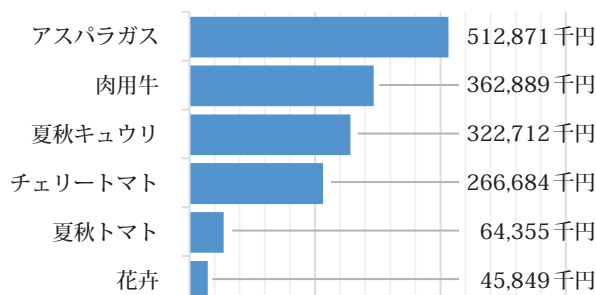
福島県統計年鑑2016 平成28年3月発行

観光客入込の推移



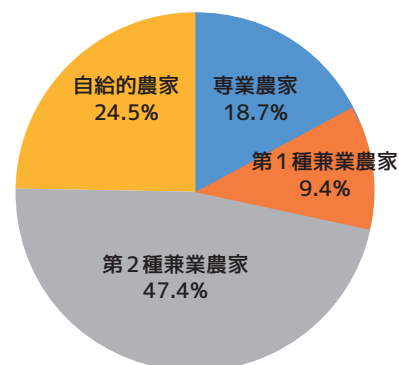
喜多方市観光交流課

主な園芸作物・畜産物の販売額



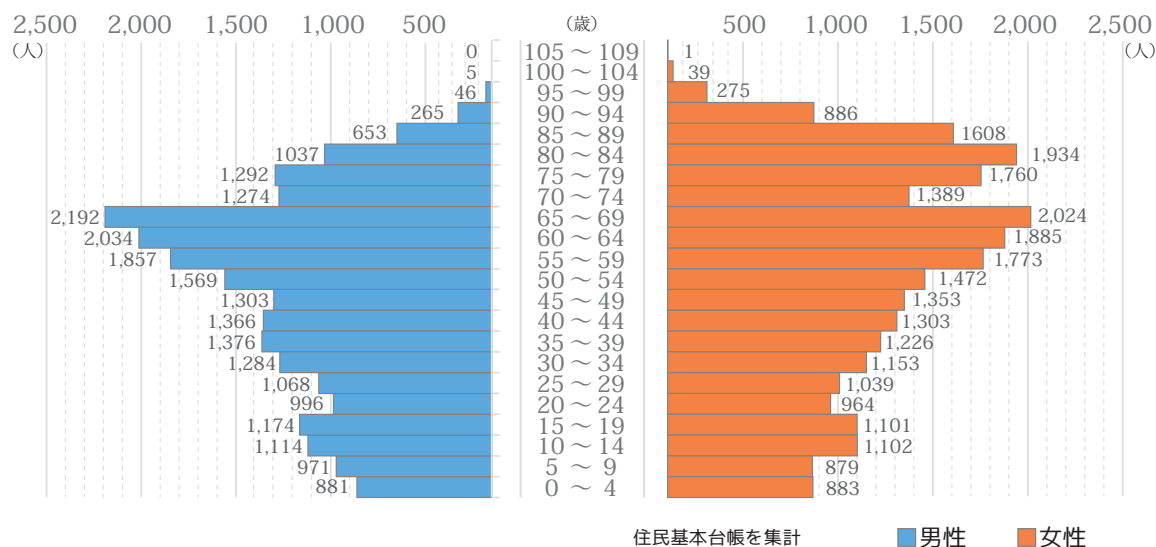
平成28年度 JA 会津よつば委託販売品販売高

農家戸数 3,743戸

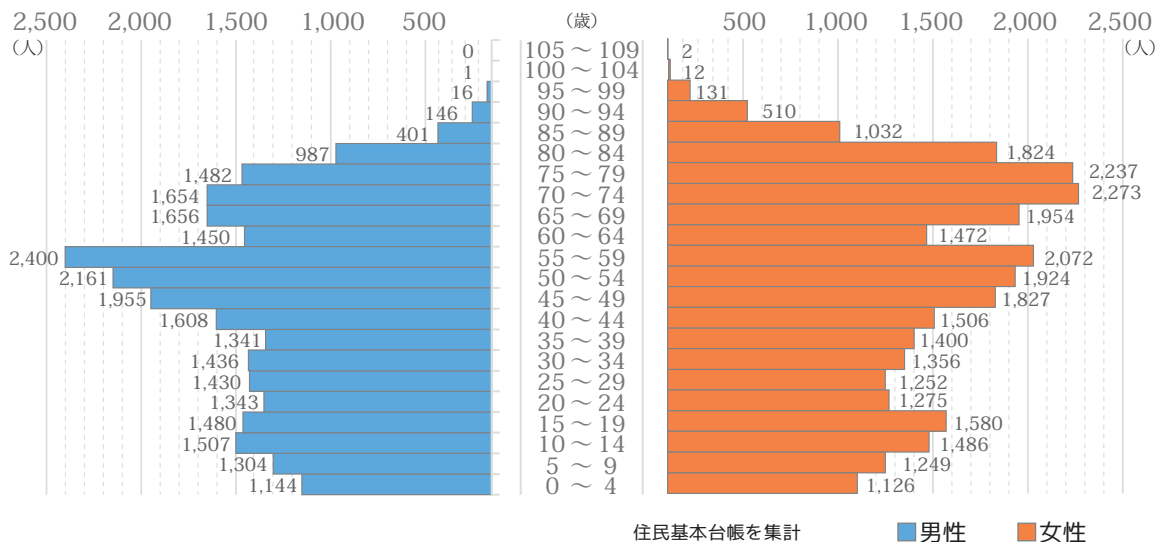


2015年農林業センサス

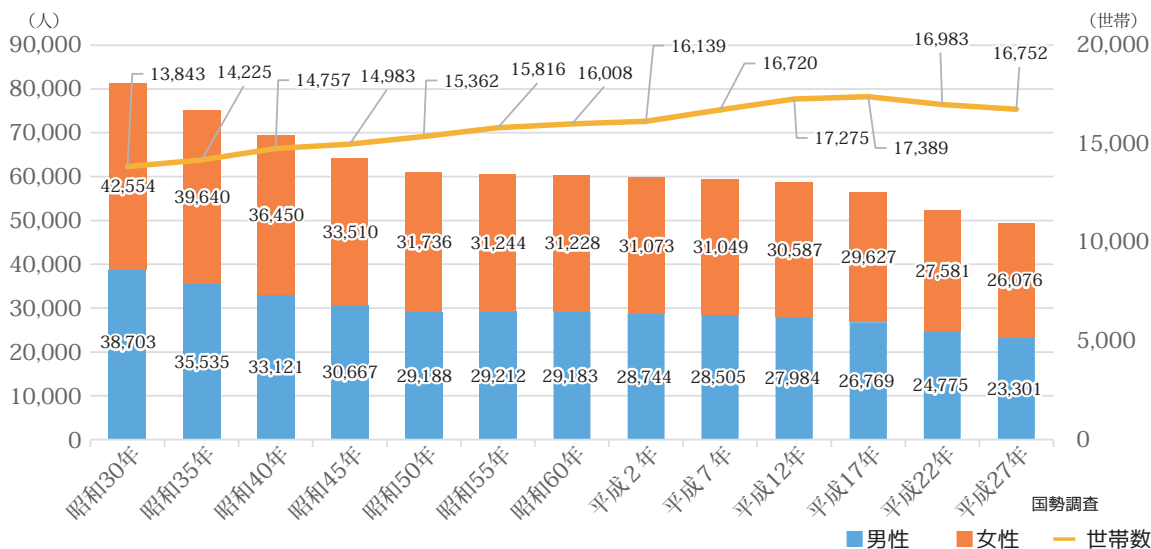
年齢別人口 平成28年4月末現在 住基人口 49,806人



年齢別人口 平成18年4月末現在 住基人口 56,402人

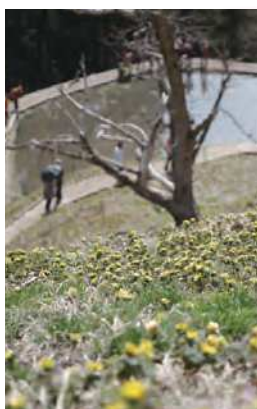


人口と世帯数の推移 過去60年間 ※ 合併前は旧市町村を集計



喜多方市の人口などの変遷をグラフデータで表しています。合併から10年間で約6,600人が減少しました。特に、20歳以下の減少と60歳以上の増加が見られ、少子高齢化が顕著となっています。一方で、世帯数は過去60年間で29,000世帯の増加が見られ、核家族化などが進行している状況も見られます。

地域資源を活用した四季折々の心躍るイベント
多くの人々を魅了する伝統の祭り
五感を刺激するイベント盛りだくさんの喜多方



1月

12日…小荒井初市

13日…山都初市

15日…塩川初市・開運舟引き祭り

17日…小田付初市

2月

中旬…蔵のまち喜多方冬まつり
(全国ラーメンフェスタ・そばフェスタ)

3月

中～下旬…彼岸獅子(中村・下柴)

下旬…寒晒しそばまつり

下旬～4月上旬
…福寿草まつり

4月

中～下旬…塩川三大肉グルメフェア

第4日曜日…鳥屋山山開き

下旬…蔵のまち喜多方桜ウォーク

29日…大仏山山開き

5月

中～6月上旬
…菜の花フェスタ

下旬…たかさと棚田ウォーク

6月

上～中旬

…ひめさゆり祭り

上旬…さつきまつり

中～下旬
…花しょうぶ祭り

下旬…太極拳フェスティバル

7月

半夏生…慶徳稻荷神社御田植祭り



上旬…飯豊山山開き

中旬…喜多方レトロ横丁

下旬…日中飯森山沢開き

最終日曜日…日橋川「川の祭典」
(イカダ下り大会・花火大会)

8月

上旬…喜多方シティレガッタ

中旬～9月上旬…ひまわりフェスタ

14日…

蔵のまち喜多方
夏まつり

(会津磐梯山庄助
踊り)

15日…

蔵のまち喜多方
夏まつり

(太鼓台競演)

山都町6000
人の盆踊り

20日…会津大念仏摂取講(中ノ目)

30日…会津大念仏摂取講(小沼)



9月

9日…三島神社太々神楽

10月

上旬…
会津塩川バルーン
フェスティバル

中～下旬…
会津たかさと雷神
そばまつり

中～下旬…山都新そばまつり

11月

3日…蔵のまち喜多方健康マラソン大会

上旬…たかさとリバーサイドウォーク

上旬…ふれあいきたかた農業まつり

下旬…長床ウォーク

12月

31日…長床絵ろうそくまつり



将来の都市像

力強い産業 人が輝く

活力満ちる安心・快適なまち

次の4つの大綱(まちづくりの基本方向)のもと、将来の都市像の実現を目指します。

大綱 1

地域の特性を生かした力強い産業づくり

人口定住に結びつく持続可能な経済活動の実現に向け、基幹産業である農業、ものづくり産業の更なる発展と地域資源を活用した魅力ある観光を推進するとともに、企業の誘致や林業の再生、街なかの賑わいを創出するなど、力強い産業の振興により新しい産業や雇用の創出、所得の向上が実現されるまちを目指します。



農 林 業	担い手の確保と地域の特徴を生かした経営の展開により、魅力ある農林業の持続的な発展を目指します。
商 業	経営環境を高めるとともに、多様な交流で賑わいを創出することにより、活気あるあきないのまちづくりを目指します。
工 業	企業立地を推進するとともに、操業支援の充実により、就業構造基盤の強化を目指します。
雇用・労働	就業支援の充実と労働者福祉の向上により、安定した雇用と市内への定着を目指します。
観 光	地域資源の魅力を最大限に引き出すことにより、出会いと発見・感動あふれる観光の振興を目指します。

大綱 2

地域を支え未来を拓く人づくり

「まちづくりは人づくりから」の理念のもと、次代を担う子どもたちに向け質の高い良好な教育の実践とその環境整備に取り組むとともに、市民一人一人が、郷土の偉人や歴史・文化に学び、心豊かで充実した人生を送ることができるよう学習機会の提供や主体的に活動できる環境を整備します。そして、生涯にわたり郷土に愛着と誇りを持って、様々な分野で活躍する、本市の未来を支える人材が育つまちを目指します。



学 校 教 育	一人一人の個性や能力を引き出し、活かし、伸ばす教育により、すべての子どもの「生きる力」を育むことを目指します。
生 涯 学 習	だれもが、いつでも、どこでも学習やスポーツに親しむことができる環境づくりを推進することにより、生涯学習活動への主体的な実践力を育むことを目指します。
歴 史 ・ 文 化	郷土の歴史や文化財の保護・保存、継承、活用と文化芸術の振興により、市民の歴史・文化等に対する一層の理解と意識の向上を図り、豊かな感性と郷土愛を育むことを目指します。
男 女 共 同 参 画	男女共同参画の推進により、男女がお互いを尊重しあいながら、自らの意思に基づいて個性や能力を発揮できる社会の実現を目指します。

10年先 さらにその先も 豊かで元氣な喜多方
良好な経済状況と安定した市民生活を生み出し、だれもが活躍する、活力に満ちた元氣なまちと市民の求める安心で快適なくらしを実現していくというビジョンのもと、新たな時代を創造していきます。

大綱 3

安全・安心、思いやりのある、 人にやさしいまち・くらしづくり

保健、医療、介護、福祉の充実と連携、災害等への備えの強化など日々のくらしにおける安全・安心を確保し、若い世代が安心して子どもを産み育てることができる環境や高齢者が元気に生きがいをもってくらしらせる環境づくりを推進するとともに、生活や産業などを支える社会基盤の維持・充実により、活力ある、だれもが快適で生活しやすいまちを目指します。



子ども・子育て	子育て環境の整備と切れ目のない子育て支援により、安心して子どもを産み・育てることができるまちを目指します。
保健・医療・ 介護・福祉	保健・医療・介護・福祉の連携により、だれもが住み慣れた地域で健康に、安心してくらし続けることができるまちを目指します。
消 防・防 災	消防・防災体制の充実と自主防災意識の高揚により、災害に強いまちを目指します。
生 活・安 全	交通事故や犯罪、野生動物による人的被害の未然防止や放射線への不安解消により、安全で安心な生活が送れるまちを目指します。
社 会 基 盤	市民生活や産業などを支える社会基盤の整備・維持管理の推進により、安全で快適なくらしと経済活動の活性化、自然環境に配慮した良好な生活空間の形成を目指します。

大綱 4

自然との共生と元気なふるさとづくり

市民が主体的に行うまちづくりや市民活動を支援し、地域間の連携と交流や大学、企業等との協力・提携、移住者の受け入れなどにより魅力的で持続可能なまちづくりを推進するとともに、生活環境や自然環境、地球環境へ配慮した取組を進めるなど、地域の価値を高め、自然との共生と市民と行政の協働による活力あふれるまちを目指します。



協働・地域コミュニティ・市民活動	市民の主体的な活動の促進や市民と市の協働によるまちづくりにより、地域課題の解決や地域の活性化を目指します。
移 住・定 住	若年層を中心に市外からの移住、市内での定住促進により、人口減少の抑制と地域力の維持向上を目指します。
連 携・交 流	多様な連携と交流を通じ、ひと・もの・情報の流れを活発化することにより、本市の魅力や活力の向上と地域課題の解決を目指します。
生活環境・自然環境・景観	清らかな水の確保、美化意識の向上、良好な景観の形成により、心豊かな生活ができるまちを目指します。
循環型社会	限りある資源の有効活用と再生可能エネルギーの普及促進により、環境にやさしいまちを目指します。



喜多方市勢要覧

発行 喜多方市企画政策部企画調整課

〒966-8601 福島県喜多方市字御清水東7244番地2

<http://www.city.kitakata.fukushima.jp/>

発行 平成29年3月



市章

喜多方市の『𪗇』をモチーフに、歴史と文化の創造と交流・情熱を赤、自然との調和と共生を緑で表現し、合併した5市町村が一体となり輝く明日へ向かって市民一人ひとりがのびのびとジャンプしている姿を表し、市と市民の飛翔をイメージしています。



市の花《ひめさゆり》

可憐な淡いピンクの花で野山を彩り、多くの人に愛される「ひめさゆり」のその姿は、豊かさと明るさのあふれる喜多方市の象徴としてふさわしい花です。



市の木《飯豊スギ》

豊かな緑を絶やすことなく、厳しい風雪に耐えて年輪を刻みながらまっすぐに伸びるその姿は、未来に向かって限りなく発展する喜多方市の象徴としてふさわしい木です。



市の鳥《セキレイ》

昔から縁起のよい鳥とされ、「イシタタキ」の愛称をもつ「セキレイ」は、その様子からも「勤勉な鳥」と言われることから、今後更なる発展と活性化を目指す喜多方市の象徴としてふさわしい鳥です。



市の魚《イトヨ》

水質汚濁に極めて敏感で、水温や水量等の環境変化にも弱いため、清流のシンボルとされている一方、美しい湧水地で冬を乗り越えるたくましさも備え持つ「イトヨ」は、昔から「トゲチヨ」の愛称でも親しまれており、美しい水と豊かな自然を誇る喜多方市の象徴としてふさわしい魚です。



市の昆虫《ホタル》

豊かな自然の夜空に舞う「ホタル」の光は夏の風物詩であるとともに、見る人に潤いと安らぎを与え、美しい水と豊かな自然を誇るふるさと喜多方市の象徴といえる昆虫です。